



# 小論文

時間 120分

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはならない。
2. この問題冊子は11ページである。印刷不鮮明の箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答用紙の指定欄に必ず受験番号を記入すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

<資料>は、西倉実季「外見校則とルッキズム」(内田良・山本宏樹編『だれが校則を決めるのか——民主主義と学校』岩波書店, 2022年)の一部である。資料を読んで、下記の設問に答えなさい。

- (1) 下線部①「あくまで確率論的な現象であるはずのリスクが過大に見積もられ、その回避を理由に生徒の外見の管理・統制が正当化される」とはどのようなことか、説明しなさい。

(1行20字詰め, 8行以内)

- (2) 下線部②「外見校則が特定の外見を『逸脱』として否定的に価値づけるだけでなく、同時に、逸脱していない『正しい外見』『普通の外見』を生み出している」とはどのようなことか、資料のエピソードに則して説明しなさい。

(1行20字詰め, 14行以内)

- (3) ルッキズムに関するイレレヴァント論ないしバイアス論のいずれか一方を説明しなさい。次に、資料には取りあげられていない具体的な外見校則を一つ取りあげ、その校則に対するあなたの賛否とその理由を、先に説明した論を用いて述べなさい。

(1行20字詰め, 30行以内)

(注意)

解答にあたっては、解答用紙の1マスに1字を使い、句読点、引用符、括弧などはいずれも1字として扱うこと。ただし、算用数字およびアルファベットは1マス2字とする。書き出しおよび行を改めたときには、1マス空けること。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。



この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題からお見せすることができませんのでご了承願います。

# 令和7年度入学試験 小論文「出題意図」

## (入試情報公開用)

### 行政政策学類 一般選抜 後期日程

本問は、西倉実季「外見校則とルッキズム」(内田良・山本宏樹編『だれが校則を決めるのか——民主主義と学校』岩波書店、2022年)の一部を資料として用い、受験生の読解力、要約力、論理的思考力や論述力を問うものである。

資料において筆者は、従来は等閑視されがちであった生徒の外見を縛る校則を取りあげ、ルッキズムの観点から、外見校則に関わる論点と潜在的な問題点を理論的に分析している。ルッキズムについて、イレレヴァント論とバイアス論という二つの異なる捉え方があることが示された後に、それぞれの論がどのような外見校則をどのような理由から問題視するのかが論じられる。

設問(1)は、学校側がリスクを過大に見積もることで、生徒の外見の管理・統制が正当化されているという筆者の捉え方を説明させることで、読解力と要約力をみるものである。

設問(2)は、外見校則が「逸脱」した外見をつくりだすことに伴う影響を筆者がどのように捉えているかを、資料のエピソードと結びつけて説明させることで、読解力と要約力をみるものである。

設問(3)は、資料で紹介されているイレレヴァント論とバイアス論の二つのうち、受験者自身を取り上げる外見校則を論じるために適切な方を選択したうえで、その外見校則に対する賛否と、その理由を論述させるものである。それにより、読解力と要約力、論理的思考力と論述力を総合的にみるものである。